



みやぎ視能訓練士の会
The Association of Miyagi Orthoptists



11月号の会報をお送りします。

～内容～

- | | |
|--------------------------------|------|
| ① <報告>2022年度第1回地域巡回リハビリテーション事業 | P2 |
| ② <報告>2022年度第2回地域巡回リハビリテーション事業 | P3 |
| ③ <報告>2022年度児童生徒の近視実態調査 | P4 |
| ④ <報告>3歳児健診屈折検査モデル事業 | P5-6 |
| ⑤ <報告>園児の視力検査実技講習会 | P7-8 |
| ⑥ <お知らせ>第9回施設紹介『おくやまアイクリニック』 | P9 |
| ⑦ <お知らせ>2022年度第1回全体会 | P10 |

★☆☆会報、その他に関するお問い合わせ

koho@myg-ort.com

☆☆★会員記録や登録アドレスに関するお問い合わせ

j.ort@myg-ort.com

★☆☆会費に関するお問い合わせ

kaikei@myg-ort.com



11月

【2022年度 第1回 地域巡回リハビリテーション事業報告】

〈日時〉2022年7月4日（日）10：00～15：00

〈場所〉石巻市保健相談センター（石巻市鑄銭場1-27）

〈担当〉眼科医：山崎（星陵緑内障クリニック）、視能訓練士：高津・東海林（東北大学病院）、笹山（日本盲導犬協会）、我孫子・中村（宮城県視覚障害者情報センター）、庄司・穂積・狩野・及川・高田（宮城県視覚障害者福祉協会）、立身（石巻視覚障害者センター）
多田（トラストメディカル）敬称略

〈参加者〉24名（当事者15名、付き添い・介助者9名）



今回参加して頂いた方は「読むことを諦めたくない」「スマートホンを使ってみたい」「自分でできることは自分でしたい」と積極的な方が多い印象でした。日常生活での困りごとをゆっくり時間かけて、医師に相談していました。特に印象的だったことは、白杖に抵抗を感じていた方が、歩行訓練士の丁寧な説明と指導のおかげで前向きに歩行訓練を行うこと決めることができていたことです。スマートホン操作に詳しい相談員

のiPhoneを借り、Voice Overで操作・体験した方もいらっしゃいました。体験したことで、1人でスマートホン操作できるようになるということが目標になったようです。巡回リハで行ったことが、訓練や目標を決める後押しになっていたことで意味のある活動だと感じました。

石巻は震災後に様々なボランティア活動が活発に行われ、既存の同行援護やヘルパーの利用以外にも、移動支援のボランティア団体を利用している方がいらっしゃいました。

病院などの通院以外にも日帰りのバスツアーなど楽しめる企画もあり、以前より外出機会が増え、考え方が前向きに明るくなったとご家族よりお話がありました。また、視覚障害の当事者で設立された活動団体もあり、石巻は視覚支援活動が活発に行われている地域と感じました。今回行ったロービジョンケアが石巻に住む当事者の皆様の生活がさらに楽しくなるきっかけになれば幸いです。

文責：東海林（東北大）





【2022年度 第2回 地域巡回リハビリテーション事業報告】

〈日時〉2022年9月4日（日）10：00～15：00

〈場所〉多賀城市市民サポートセンター たがさぼ（多賀城市中央2丁目25-3）

〈担当〉眼科医：陳（あさひがおか眼科）、山崎（星陵緑内障クリニック）、視能訓練士：東海林・遠藤（東北大学病院）、大谷（日本盲導犬協会）、中野渡（宮城県視覚障害者情報センター）、庄司・穂積・狩野・高田（宮城県視覚障害者福祉協会）、多田（トラストメディカル）、伊藤、菅田、松淵（東北文化学園専門学校）敬称略

〈参加者〉12名（当事者7名、付き添い・介助者5名）

今回参加頂いた方は、既にロービジョンケアを受けたことがある方が多く、必要な補助具や選定してほしいものを初めから明確になっているケースが多く見られました。

一方で、障害者手帳を取得していても補助具など所持しておらず、支援やサービスについても情報が届いていない方もいらっしゃいました。

また、足腰の不調や見えにくさが原因で外出の機会が減少し自宅にこもりがちになり、趣味も楽しめず日常生活の楽しみが全くないとの声もありました。

巡回リハビリテーションに参加頂いたことで、視覚的・福祉的サービスを知り、さらに補助具や便利グッズを選定、処方されたことが、少しでも日常生活の楽しみを見出すきっかけになっていればと思います。



情報が届きにくい方へどう届けるか、クリニックや視能訓練士へのロービジョンケアの普及などが今後の課題になるかと思いました。



文責：東海林
（東北大）



『2022 年度児童生徒の近視実態調査』実施報告

1) 実施校・日程・生徒数

- ・東向陽台中学校 2022 年 4 月 21 日 470 名
- ・明石台小学校 2022 年 5 月 19 日 352 名
- ・東向陽台小学校 2022 年 5 月 26 日 599 名



2) 参加者

安達いづみ 伊藤沙奈 小野寺真司 加藤千穂 蒲倉紗也佳 川上綾子
近藤美来 齋藤有希子 坂本葉子 佐藤かおり 杉山真生 原口翔太
福田友美 村上絵里子 (五十音順)

令和 3 年度に引き続き今年度も児童生徒の近視実態調査が行われました。

参加して頂いた皆様のご協力のおかげで無事調査を終える事が出来ました、ありがとうございました。

今年は昨年の反省を活かし、レフトと IOL マスターの検査順を替えるなど、よりスムーズに検査できる様に工夫しながらの実施となりました。

コロナ禍以降、オンラインでの会議や勉強会が増えた今、近視調査の場は他施設の視能訓練士と交流しつつ協力しながら活動出来る貴重な機会だと感じました。

また我々視能訓練士が眼科以外の場所で活動するという事は、『視能訓練士』の認知度を高め、活動の幅を広げる事にも繋がると思いますので、今後も会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

文責：古川中央眼科 小野寺真司



仙台市3歳児健診屈折検査 モデル事業報告



2023年度以降の3歳児健康診査への屈折検査導入実現に向け、9月にモデル事業を6地区で行いました。

3歳児健診への屈折検査導入については、2017年頃より、仙台市眼科医会より市に要望書を提出していたもののなかなか動きがありませんでした。

2021年8月に3歳児健診他覚的屈折検査検討委員会を発足。

(メンバーは仙台市眼科医会会長、担当理事、視能訓練士として二本柳と安達、計6名)

仙台市に働きかけを続け、その交渉中に、2022年4月以降自治体からの申請により機器購入費用の半額が国庫から補助されることになったこともあり、仙台市でもSpot vision screener (SVS)を使用した屈折検査モデル事業を行うことが了承されました。

このモデル事業には医師1名と視能訓練士2名が出向き、市の関係者が見学、区保健センターの保健師等に屈折検査を導入した場合の流れなどを検討してもらいました。

実施日	実施場所	参加視能訓練士	実施人数
9月1日(木)	若林区	安達いづみ・佐藤かおり	24名
9月7日(水)	太白区	安達いづみ・佐藤かおり	26名
9月13日(火)	宮城野区	安達いづみ・佐藤かおり	33名
9月14日(水)	青葉区	安達いづみ・太田五月	25名
9月15日(木)	宮城総合支所	安達いづみ・佐藤かおり	26名
9月21日(水)	泉区	安達いづみ・川上綾子	40名

各区役所、支所の保健センターで行いました。コロナ禍、そしてモデル事業とあって、どの保健センターでも受診人数を制限していましたが、同意を得られた174名中173名に検査が可能でした。

現在、視能訓練士参加による屈折検査導入の実現に向けて進めています。

視能訓練士の参入が決まれば、皆様のご協力が不可欠ですので、
その際はどうぞよろしくお願いいたします。

文責 安達

はじめての環境、臨床から離れてから〇年…検査できなかつたら…と不安と緊張の中での参加でした。いざ行ってみると、保健師さんをはじめスタッフの皆さんが受け入れ態勢万全で迎えてくれ、一安心でした。皆さん、検査にも興味津々でした！

検査自体はお子さんも思っていた以上に協力的で、検査に慣れていない私でもてこずる場面もほとんどなく、SVS の検査の成功率のすごさも感じてきました。家での視力検査で再検になっていないケースでも、要再検となることもあり、やはり屈折検査は必須だなと改めて思いました。

また、健診後のカンファレンスにも参加させてもらい、様々な面から1人のお子さんの状況をみているなど感じました。その中の一員として3歳児健診に関われるのは視能訓練士としての視野も広がり、今後もぜひ関わられたらなと思いました！

お忙しい中、眼科医会の先生方と事前の準備を進めてくださった、安達先生、二本柳先生のおかげで、貴重な経験ができました。ありがとうございました。

東北文化学園専門学校 佐藤かおり

今回私は青葉区の三歳児健診(屈折検査)に参加した。

青葉区では、屈折検査と視力検査が一連の流れではなく、聴力検査の後にSVSによる屈折検査をおこなった。視力検査は歯科検診の後におこなわれていた。SVSを扱うのははじめてだったが、児の注意をこちらに向けることができると30秒ほどで検査することができたので思っていたより不安なく扱えた。それでも、いつもと違う環境での検査だったので希望されたすべての児の検査が終わったときはほっとした。

三歳児健診に参加してみて健診の流れがよく分かった。

受付から始まり、問診、聴力検査、身体測定、歯科健診、視力検査、心理相談、栄養相談、診察など様々な項目があった。子どもの心身の健康のために小児科医・歯科医師・保健師・臨床心理士・栄養士・市職員など様々な職種が支えているのだと改めて感じ、そこに視能訓練士も関われるのかと思うとうれしくなった。

今回はモデル事業だったため眼科医1名、視能訓練士2名で参加した。本事業となった際は視能訓練士が一人で行うこととなる。区の保健師や市の職員の方と連携をとれるか不安な点もあるが、視能訓練士同士の引き継ぎ等を密に行い、子どもの目の健康を守る職種として活動したいとより一層感じた。

宮城県立こども病院 太田五月



園児の視力検査実技講習会



去る9月15日(木)、宮城県医師会館にて3年ぶりに仙台市内の幼稚園の教員を対象に開催されました。コロナの影響で参加施設は6施設、人数は8名と少なかったのですが、講師4名で丁寧に会を進めることが出来ました。

14時より小林眼科の小林茂樹先生の「斜視・弱視」の講演と仙台長命ヶ丘クリニックの視能訓練士佐々木美来さんによる「園児の視力検査」の講演それぞれ30分の後、2グループに分かれて実技指導を行いました。

参加会員の感想です

働いていると、就学前検診・小学校検診で視力指摘があり、眼科受診の際に弱視が発見される症例を見ることがあります。視覚の感受性期間を考えると、なぜすり抜けてここまでできてしまったのか、もっと早くに気付けるタイミングは無かったのかと思ってしまう。

新型コロナウイルス感染拡大により、三歳児健診を自宅での検査で対応している地域もあったようです。自宅で検査することで、上手く出来ない、答えられない場合に眼科受診させる判断も難しい保護者の方も多と思います。加えて、混雑している眼科への受診も躊躇いがちになっていると思います。

そんな中、普段通っている園で視力検査が導入されることで、三歳児健診すり抜けの発見や就学前検診前の練習(検査への抵抗を減らす、理解を深めるなど)、保護者の視力に対する関心が向上する(弱視は風邪のように訴えがなく気が付きにくい)などのメリットがあると考えました。

ですが、園の負担は大きいと思います。実際、指導中も視力検査の難しさに抵抗がありそうな様子も伺えました。検査の質の向上も大事ですが、積極的に実施してもらう為に、講習会に一つの園の先生が数名参加できる曜日や時間の設定、講習会の回数を増やす、視力検査の方法を動画にして配布するなど工夫していく必要があると感じました(視能訓練士の会の方々の都合もあると思いますが…)。

初めての経験でしたが、少しずつでも実施して下さる園が増えるようにお役に立てればと思います。

(仙台長命ヶ丘クリニック 佐藤愛夏)

私が担当したグループは皆様積極的だったため、その方それぞれに合った視標の提示の仕方を指導できたと思います。ただ、記載や提示の際に皆様一度は左右を間違ったことがあったので、その点にたいしてはもっとわかりやすい説明ができればよかったのかなと反省しています。

また、判断を悩んだときは誤答とすることで、弱視の子どもを早期発見出来る可能性が高まることも共有できたので、弱視治療が必要な子どもの早期治療開始に繋がればいいなと思いました。

この度は指導に参加させていただきありがとうございました。機会があった際はまた協力させていただきたいと思います。

(かとう眼科医院 向田菜奈海)



先生方の前でお話するのは2回目でした。参加人数が例年より少ないとはいえ、どの施設の先生方もこれから視力検査することを考えて参加されているので、内容を理解しようという気持ちを強く感じました。そのため検査の進め方への理解は早かったように感じます。

しかし、字一つ視標の出し方は慣れるのに時間がかかるようで、視標の切れ目の方向に気をとられてしまい検査を進めるのが難しい、という声がありました。幼稚園の先生方は子どもへの声掛けはスムーズですが、検査に慣れないため視標をだす向きや結果に夢中になってしまうようです。

練習する先生方の視標の扱いを見ていて、私自身も学生の頃に先輩方の提示スピードに追い付けるよう、沢山練習したことを思い出しました。よりスムーズに検査へ取り組めるような方法を考え、検査実施をあきらめずに多くの先生方にチャレンジしてもらえそうな工夫や改善が次回も必要であると思います。

子どもたちの弱視の早期発見のためにもとても大切な活動であり、日々行っている検査を初めての人に伝えるのは視能訓練士としてとても有意義な時間だったと感じました。

(仙台長命ヶ丘クリニック 佐々木美来)



現場に立ち会ったのはたぶん3回目だと思います。手探りで始めた事業ですが、講演スライドも年々練れてきていますし、名目こそ宮城県眼科医会となっていますが、参加視能訓練士の意見や工夫が活かされた我々の仕事となってきているのを感じます。今回は少ない人数で

したが、初めて参加の若い二人もとても熱く指導してくれて、頼もしく感じました。

様々な施設の視能訓練士が参加することで、幼稚園や保育所の先生方を介しながら弱視や斜視の早期発見につながり、視能訓練士の知名度も上がっていくことと思います。人に教えることで、自分の知識の確認もできて一石二鳥。

次年度は是非また多くの会員のご参加をお待ちしています。

* 今回ももちろん参天製薬・眼科医療センターのご協力をいただきました。ありがとうございました。

(東北文化学園専門学校 二本柳淳子)





第9回施設紹介は

『おくやまアイクリニック』です。



第1回『東北大学病院』

第2回『東北医科薬科大学病院』

第3回『古川中央眼科』

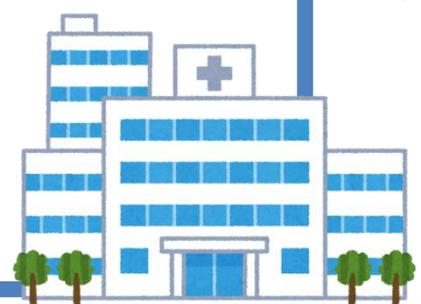
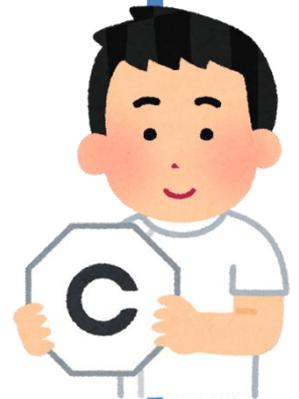
第4回『県南中核病院』

第5回『やすい眼科』

第6回『宮城県立こども病院』

第7回『東北ろうさい病院』

第8回『かとう眼科医院』



ホームページはコチラ→
<https://myg-ort.com/>



第

1

回

全体会のお知らせ

「コンタクトレンズセミナー」

2023年 **1**月 **19**日(木)

19:00～21:00 (予定)

講師：村岡 卓 (むらおか たく) 様
クーパービジョン・ジャパン株式会社
エグゼクティブ シニアコンサルタント
米国ドクター・オブ・オプトメトリー

演題1：軽度乱視を含めた乱視矯正の重要性
～トーリックソフトコンタクトレンズのメカニズムと
軸補正の理論を含めた～

演題2：遠近両用ソフトコンタクトレンズのシンプル度数調整とコツ

◆参加申し込み 次回会報にてお知らせします

みなさまの参加をお待ちしています。

開催形態：オンライン(zoom)

担当：小野寺 (shinji0924onodera@me.com)